

〔書言字考節用集五氣形〕黃タラ類魚本草黃胤上同鱈和俗所用

〔尺素往來〕巡役之朝飯明日可令勤仕候此間依霖雨美物雖難得候○中魚類者○中多樂

〔和爾雅六龍魚〕吳タラ魚俗名大口魚

〔和漢三才圖會四十九〕吳魚江海有鱗魚鱈魚 鱈魚 大口魚東醫 俗云多羅 魚之大口者曰吳

按吳魚狀略類鱈○中性喜寒夏月全無故俗作鱈字矣

〔日本釋名中〕大口魚 まだら也其皮少まだら也まの字を略す

〔安齋隨筆二十〕鱈 タラとよむ此の字は字書になし吾が國にて作りたる字なる故訓ありて音

なし支那には鱈なきゆえ文字もなきなり朝鮮には此の魚あり大口魚と名付く亦一名口大魚

と云ふ朝鮮人の著したる東醫寶鑑と云ふ書に見えたりタラと云ふ字は字書には本草類にも

支那の書になければ漢名も正字もなきなり我が國にては鱈の字を用ふべし然るに鱈の字を

不用して朝鮮の大口魚口大魚の字を用ふる人あり何ぞ我が國の字を捨て隣國の字を用

ひんや

〔天上臆御名之事〕安房ことば

二たら ゆき

〔親元日記〕文明十五年正月十三日未佐々木田中四郎五郎殿貞信より雁二雪五まいる 十七

年九月十七日乙丑朝倉初雪魚東山殿様御所様各一進上之

〔本朝食鑑八〕江海有鱈

釋名鱈字古書未見之本朝所製也然於義相協會聞

鱈魚當冬月初雪之後必多採之故字從雪歟
集解雪魚略類于鱈而大口細鱗大頭堅骨領下有細鬚而難見頭中有白石三箇若棋子之小若蛤殼
之碎端有鋸齒鱗色青黃帶白久則淡白皮薄肉白鱗尾共軟味甘淡而爲佳珍也東西南海未見但北